

令和7年度関西・高知経済連携強化アドバイザー会議 意見概要

日 時：令和7年10月28日（火）14：00～16：30

場 所：シェラトン都ホテル大阪 3階 志摩の間

参加者：別添「アドバイザー名簿」「県側出席者名簿」のとおり

議事 第2期関西・高知経済連携強化戦略 これまでの取り組みと令和8年度強化の方向性

＜公益財団法人日本デザイン振興会 深野アドバイザー＞

- ・先日「2025年度グッドデザイン賞」の受賞結果を発表したが、今年は木材に非常に注目が集まっており、大阪・関西万博の象徴である大屋根リングが「未来社会デザイン特別賞」を受賞した。
- ・大屋根リングの約4割に高知県産の木材が活用されていることもあり、高知県にとっても関係が深いものと認識している。
- ・大屋根リング全体で使われている約27,000 m³の木材の再利用についても話題になっている中で、うち1,200 m³については、能登に無償譲渡のうえ復興住宅に活用する話が進んでおり、間接的ではあるものの、高知県が能登の復興にも貢献したと言えるのではないかと。
- ・今年グッドデザイン賞の内閣総理大臣賞を受賞したのは、建築家の坂 茂（ばん しげる）氏を中心として建設された能登の仮設住宅「DLT (Dowel Laminated Timber) 木造仮設住宅」である。
- ・DLTは、接着剤を一切使わずに組み上げる建築資材であり、非常に伸びしろのある木材の使い道だと思われるため、紹介させていただいた。

＜公益財団法人大阪観光局 溝畑アドバイザー＞

- ・「SUPER LOCAL」という言葉は非常に良い響きである。
- ・「極上の田舎」を強みとして言い切るところは唯一無二であり、このワードは世界に響くと思う。
- ・特に今後世界的な課題となるSDGs、カーボンニュートラル、生物多様性において高知県はトップランナーになり得ると考えており、これは大きなブランドになる。
- ・「みどりのプロジェクト」においては濱田知事に副会長を務めていただいているが、今回の万博で5月と10月にシンポジウムを行い、「世界に向けてOne Greenを広めていこう」というテーマで発信した。
- ・「木を守っていこう」というムーブメントは世界で非常に評価が高まっており、都市の価値につながるものである。
- ・その一環としても、万博の大屋根リングには高知県が多くの木材を提供しており、大屋根リング一部解体後の木材については、是非高知へ里帰りさせて活用してほしい。
- ・次に、若手の優秀な人材をいかに取り込んでいくかという点について触れたいが、特に林業、農業、飲食の分野は、ある意味でスタートアップビジネスのようなものだと考える。
- ・そのうえで、林業でも高付加価値型の6次産業的な構造をいかに作っていくかが重要。

- ・高知県は林業の6次産業化にも努力されており、今後は若いベンチャー系の経営者が参画できるような仕組みを構築していくことが求められ、そのためにはバーチャルをうまく活用する必要がある。
- ・例えばメタバースを活用して、現地へ行かずともバーチャルで交流を図り、徐々に定住につなげていくような、多居住型のライフスタイルや、段階的な移住に向けた取組も重要かと思う。
- ・次にラグジュアリー対策についてであるが、先日(令和7年10月8日)には「Connections Luxury (コネクションズ・ラグジュアリー)」(富裕層向け観光商品の商談会)を令和8年から3年連続で大阪に誘致した旨の記者発表をした。
- ・来年以降の商談会(Connections Luxury)の際には、高知県の富裕層向けの旅行商品も是非活用したい。
- ・話は変わるが、現在阪神タイガースの監督をされている藤川球児氏が現役引退する際、濱田知事が花束を贈呈したと記憶しており、今年阪神タイガースを優勝に導いた藤川氏を、里帰りということで高知県で歓迎すれば、スポーツ紙などマスコミからも大きな注目を集めると思う。
- ・大阪IRについては今年の5月に着工し、順調にいけば2030年の秋に開業予定である。
- ・高知県がIRにコミットできる分野の1つとして、テーマごとに地域の魅力を発信できる機能を持った魅力増進施設が作られるが、この施設は「日本の観光ショーケース」を念頭に置いて計画が進められているため、是非今のうちからここに食い込めるように準備を進めていただきたい。
- ・もう1つは、IRなどを見据えて大阪には高級ホテルの建設が進んでおり、こうしたホテルと高知の食材をつなげていく営業を進めていくことも重要。また、IR施設内にも2,500名規模の宿泊施設ができる予定であり、ここにも来年あたりからは高知の魚などの食材や、「よさこい」などの文化をソフトコンテンツとして売り込んでいく営業を仕掛けても良いのではないかと。
- ・我々が間に入り、オリックスやMGM(IR運営事業者)にセールスできる機会を作りたい。
- ・タイミングが合えばオリックスやMGMを高知に招待して、高知についてリサーチしてもらうような機会を作ることも、協力できたらと思う。
- ・最後に、関西戦略の評価基準には、「住んで良し」の「ウェルビーイング」の考え方、ここに住んで良かった、心も身体も幸福であるという指標があっても良いのではないかと。
- ・高知に住んでいる方は非常に幸せだというベースがあつてこそ、移住や定住が出てくると思う。

⇒(坂田 林業振興・環境部長)

- ・生物多様性、SDGsのトップランナーというお話しをいただいたが、SDGsで言うと都市木造の高知モデルを開発し、東京や大阪などで森を作っていこうという取組を行っており、ご提案いただいた内容につながるものかと思う。
- ・大屋根リングの木材再利用については、万博協会の公募に本県も手を挙げており、ゲートウェイである高知駅、そして高知龍馬空港に現在建設中の新ターミナルでの活用や、県内観光名所での活用などを検討している。

- ・林業分野のスタートアップ育成に関しては、まさにメタバースを活用すると、距離の問題関係なくスタートアップを目指す方に参画いただけれると思う。
- ・また本県では林業大学校を、林業再生のプラットフォームとして10年前に開校し、多数の方々卒業しているが、このような方々の着眼点も活用できるかと思う。

⇒ (小西 観光振興スポーツ部長)

- ・阪神タイガースの件については、11月1日から安芸市で秋季キャンプを実施いただくことにあわせて、11月10日に高知市内でパレードを開催する。
- ・その際に、知事から藤川球児監督、そして高知ファイティングドッグス出身の石井大智選手に、高知県スポーツ顕彰を授与させていただき予定にしている。
- ・また、IR施設内のホテルへの「よさこい」などのコンテンツの売り込みについては、是非前向きに取り組んでいきたいと考えており、ご協力いただきたい。

⇒ (濱田 産業振興推進部長)

- ・IRの情報は本県単独で入手するのは難しい部分もあり、新たな情報があれば是非ご提供いただきたい。
- ・また、IR関連施設等への本県産食材の売り込みについても尽力していきたいと考えており、是非ご協力いただきたい。

＜関西土佐会 豊原アドバイザー＞

- ・4年前に開催された本会議において、大阪・関西万博の開催年に関西圏の卸売市場を通じた高知県産青果物の販売額120億円を達成したいと申し上げたが、106.5億円という結果となり達成できず残念である。
- ・まずは販売額110億円を目指し、当初の目標であった120億円も達成したい。
- ・昨年の会議において、この場での発言がしっかりとJA高知県にも伝わるようにするため、JA高知県からも本会議に参加いただくべきではないかと申し上げたところ、早速本日山下専務に参加いただいた。
- ・また、本日この会議に先立ち、関西の卸売会社5社と、濱田知事、JA高知県の山下専務を交えて意見交換をさせていただき、非常に有意義な話ができたと感じた。
- ・山下専務からは、高知県が出荷する青果物の2割を関西に向けて卸していくので、是非販売に協力いただきたいとの心強い言葉を頂戴したので、皆様にもご協力いただきながら尽力していきたい。
- ・話題が変わって農業の後継者の問題に関して、高知県においては63%の農家が後継者未定であると言われていたが、先日高知県立体育館で開催された大会（令和8園芸年度 高知県園芸品販売拡大推進大会）に参加した際には、若い生産者も多くいて活気を感じた。
- ・後継者については将来的ではなく直近の課題であり、しっかりと取り組んでいきたい。

⇒ (松村 農業振興部長)

- ・まずは高知県で青果物をしっかりと作って、出荷していくことが重要であるため、精一杯取り組んでいきたい。

<一般社団法人関西日印協会 西田アドバイザー>

- ・私がサポートしている自治体（高知県以外の市）の事例を紹介させていただくと、その自治体は「PRO Market（プロマーケット）」に取り組んでいる。
- ・「PRO Market」とは東京証券取引所にある市場であり、株式の売買はできないものの、この市場に上場することで金融機関の信用度が高まり融資が受けやすくなる。
- ・株式の売買が可能なスタンダード市場等への上場企業数を今後更に増やしていくために、商工会議所とも連携してまずは「PRO Market」への上場に向けた取り組みを進めてみたら良いのではないかな。
- ・もう1点、海外マーケットに関連するインドについては、私もサポートをさせていただき、タミル・ナド州、ナガラランド州とMOUを結び、高知県とインドの市場が近づいていることもあるため、是非各分野においてインド市場をいかに開拓するか検討いただきたい。
- ・最後に、地方行政の方々にも、是非為替相場を注視いただきたい。産業経済のグローバル化の中で国益や貿易の重要な条件・指標となる為替動向やトレンドに常に注視して高知の産業振興のグローバルを進めて頂きたい。
- ・高知においてもこれからのマーケットは日本国内だけでなく、インドを含む海外も重要なターゲットになるため、貿易に直結するものとして為替に関わる知識も習得していただきたいと思うし、必要であれば私もサポートしたい。

<パナソニックホールディングス株式会社 宮部アドバイザー>

- ・先日グランフロント大阪で、島根県がイベントを行っていたところを、偶然見かけた。その際移住相談コーナーに沢山の人が列をなしており、ニーズが高いと感じたところ。
- ・AI時代となり、ホワイトカラーの仕事が人間から奪われていく中で、仕事を失うのは都市部の方が多い。そうした方々に、地方でリアルな仕事が提供できれば、日本の一極集中が緩和する方向にも進むのではないかな。
- ・また、現在は日本全国にネットワークが普及していることから、ホワイトカラーの仕事についても家賃の高い都市部でなく、家賃が安くて環境の良い地方に職場を移すケースも考えられる。
- ・そのような労働環境の変化に適した受皿として、最近よく言われる二拠点居住を含めて高知も提案されると良いのではないかな。
- ・その際の受皿としての移住先は、高知市となるのか、高知の中でも地方となる高知市以外のエリアも考えられるのか、アクセスの問題を含め、ニーズに適した移住先をどのように作っていくかが課題。
- ・今後移住の動きは加速するのではないかと考えており、現状取り組んでおられる内容があれば教えていただきたい。
⇒（土居内理事（人口減少・中山間担当））
 - ・高知県では、移住して県内で活躍しておられる若者が沢山いらっしゃるため、そうした方々を紹介するプロモーション動画を作成して情報発信している。
 - ・二拠点居住に関しては、ANAと連携して4つの市町村（須崎市、馬路村、本山町、大川村）で二拠点居住を呼び込んでくる取組を始めたところであり、頂戴したご意見も

踏まえ、更なる取組を進めていきたい。

＜株式会社 J T B 奈良支店 天野アドバイザー＞

- ・私は現在奈良支店の支店長を務めているが、その前は高知支店の支店長をしていた経緯があり高知愛は非常に強く、奈良にしながら高知の PR をしているが、高知の認知度は十分に広がっていないと感じる。
- ・連続テレビ小説の『らんまん』、『あんぱん』に加え、大阪・関西万博の大屋根リングへの木材の活用も良い PR になったし、アンテナショップ「とさとさ」も好調で情報発信はできているが、まだ十分ではないと思うし、認知を高めていくための PR 手法については、さらに検討していかなければならない。
- ・ここからは観光面での意見となるが、高知は非常に良いところではあるが、観光の障壁となるのは、空路、陸路を含めた交通面の充実が不十分であることだと思う。
- ・現状のアクセスでは、今後さらに多くの方々に高知を訪れていただくには不十分と思われる中で、アクセスの充実についてどのような形を考えておられるのか伺いたい。
- ・また、先ほど IR の話が出たが、IR には富裕層が沢山訪れることが予想されるため、そのような方々を高知へ誘致すべき。
- ・例えば IR 目的で来日された富裕層が専用機で高知へ来れるなど、時間がかかるという課題をクリアする取組も、今後考えていかなければならないと思う。
- ・インバウンドの面でも高知は非常に可能性があり、特に文化や食への関心が高い方にとっては絶好の場所である。
- ・現状のインバウンドの割合で見ると、恐らく台湾、中国、香港などのアジア圏が多いと思うが、私見としては高知に向いているのは文化を非常に愛する欧米だと思うので、是非欧米に向けた PR にも注力いただきたい。
- ・また、例えばお遍路を PR する場合には高知だけでは難しく、四国 4 県の協力体制が必要になってくると思う。
- ・インバウンドにお遍路などを PR していく場合でも、4 県の協力体制を強めることで強い高知、強い四国につながっていくと考えられるため、是非期待したい。

⇒ (小西 観光振興スポーツ部長)

- ・まず、観光において障壁となる距離と価格の問題について、特にアクセスの充実に向けては、以前は就航があった関西国際空港からの LCC 便や、神戸空港からの FDA 便の復活などに向けて誘致活動を進めていく。
- ・また、高速バスの便を充実させていくという話も挙がっているため、キャンペーンなどを実施しながら、誘客を図っていきたい。
- ・富裕層向けについては以前、関西からヘリコプターで富裕層を高知へお連れするという観光庁の実証調査を実施した。これは事業化には至らなかったが、これから IR を目指して、地道に富裕層の誘客にもチャレンジをしていきたい。
- ・大手旅行会社が実施する国内宿泊旅行の動向などの調査において「地元ならではのおいしい食べ物があった」部門でナンバーワンに返り咲いたということもあり、また来年には国民文化祭を開催するため、インバウンドの誘致に関しては、本県の食などの

魅力を見直したうえで発信を強めていく。

- ・お遍路、特に歩き遍路については、欧米の方が多いと聞いているため、四国他県とも協力しながら取り組んでいきたい。

＜公益財団法人大阪観光局 溝畑アドバイザー＞

- ・四国にある旅行会社から提案を受けて、令和7年2月に四国遍路をスタートした方々を万博会場で受け入れて、遍路のゴールとして大屋根リングを1周してもらおう企画を実施した。
- ・感動的な企画であり参加者の満足度も高かったため、是非高知だけでなく四国でまとまって商品化していただけたらと思う。

＜関西エアポート株式会社 三浦アドバイザー＞

- ・まず大阪・関西万博について触れさせていただくと、来場者数に関しては当初の計画に及ばなかったものの、会期後半になるにつれて特に日本国内の来場者が増えたことで黒字化し、成功裏に終わったとの評価を受けていると認識している。
- ・その中で海外からの来場者は、当初全体の13%程度と見込まれていたが、最終的な結果としては7～8%程度であり、数値だけ見ると期待していたほどは伸びなかったということになる。
- ・一方で、正確な統計結果はまだ出ていないものの、これまで大阪圏で見かけなかった海外諸国からの来場者が、この1年で非常に増えたと実感しており、アラブ、中東、アフリカなど非常に多様化している。
- ・また、現在万博が終了して10日ほど経過したが、多様な国々の方が大阪を訪れている状況は変わっておらず、大阪の認知度が万博を契機としてワールドワイドに広がったという評価ができるかもしれない。
- ・ただし関西国際空港における入国の状況はほぼ変わっておらず、中国と韓国が圧倒的に多く、合わせると6割近くになり、そこに香港、台湾を合わせると4分の3を占める。
- ・これは当然供給しているネットワークとしての航空便がアジアに偏っているためであるが、今後は世界における大阪の注目度の高まりが、空港のネットワークも変えていく可能性があるのではないかと感じている。
- ・高知における航空ネットワークを考えると、やはりまずは高知空港への直行便、特に近距離のアジア圏からの直行便誘致に取り組んでいただくのが良い。
- ・一方で関西戦略の関わりで言うと、大阪がどのように変化しているかということについても見ていく必要があり、大阪の認知度が広がったことも活かして、欧米など多様な海外諸国の方々に大阪を通じてアプローチすると良いのではないかと。
- ・また、話題に挙がったインドについては、私も西田アドバイザーにご紹介いただき、インドのエアライン関係の方と情報交換する機会があったが、日本とのネットワークについて正直すぐに動き出す状況ではないが、夜明け前という感覚を受けた。
- ・日本に対しては観光よりもまずはビジネスに期待しているようであり、ビジネス上で様々な取引が生まれてきて、人の往来が増えることで取引が継続化し、大阪市内にオフィスを構えたり居住するなど、ビジネスマンが滞在することを、エアラインとしては最も期待し

ているとのことであった。

- ・滞在するようになればレジャー、観光にもつながっていくため、ビジネスからの広がりを見せていけば良いと話されていた。
- ・様々な話を申し上げたが、関西戦略の観光分野での KPI の数値を見ると、関西エアポートのインバウンドの増加数とほぼ同じ水準で推移しており、よく健闘しておられると感じる。
- ・一般的には関西国際空港から入られるインバウンドの増加分については、ほぼ大阪と京都に流れていると言われる中で、高知県がこれだけ実績をあげているのは凄いと思う。
- ・そのうえで、今年のこの会議において県内宿泊施設のキャパシティが課題という話もあったかと思うので、KPI の指標はこのままで構わないが、指標の伸びとあわせて宿泊施設のキャパシティもよく見ていかれると良いかと思う。

⇒ (小西 観光振興スポーツ部長)

- ・高知空港のネットワーク強化については、アジア圏からの直行便の誘致に向けて、現在国際ターミナルの建設を進めており、来年の秋には一部運用を開始する予定。
- ・現在台湾から週に2便運行しており、これを継続していくと同時に、韓国や香港など近隣からチャーター便を誘致していきたいと考えている。
- ・また欧米など遠い国々からの本県への流入は関西からが多いと認識しているため、引き続き連携させていただき、関西国際空港経由で本県の極上の田舎を楽しんでいただけるようなツアーをしっかりと PR していきたい。
- ・また、本県の宿泊施設のキャパシティについては課題であったが、ここ最近高知市内にも大手ホテルチェーンが進出してきており、既に4施設の進出が公表されているが2～3年後には高知市内で1,000部屋程度増える見込みであり、しっかりとインバウンドを含めた誘客に取り組んでいきたい。

＜株式会社うおいち 橋爪アドバイザー＞

- ・輸入水産物については、現状円安の影響で買い負けが生じている。ここ10年で為替が40円以上変化しており、特にタコ・イカ・サケなどは10年でほぼ2倍の価格になっているような厳しい状況で、日本に入ってくる量は減っている。
- ・そのような状況で、高知県の水産物もさらに関西でも売っていききたいが、その際にネックになるのが物流ネットワークの不備である。
- ・高知県から関西への水産物はほぼ混載便で入ってくるが、現状では獲れてから関西への到着までに中1日かかっている状況。高知県で主に獲れているアジ、サバ、金目鯛、鰹などの天然物については、仕入れが1日遅れるとそれだけで価格は1～2割下がってしまう。
- ・物流の時間を短縮いただけたら、関西の小売店もどんどん高知の魚を売っていただけると思うので、是非お願いしたい。
- ・また、アジで言えば全国的には「関アジ」が有名であるが、高知県の土佐清水市や宿毛市で獲られるアジは、豊後水道の「関アジ」とほぼ同じ味であり、高知のアジや鰹や金目鯛について、「関アジ」のようにブランド化したら良いと思う。
- ・今年黒潮大蛇行が終わったことで、サンマ、近海のマグロ、ウナギの稚魚などが豊漁であるなど、天然水産物が今後増えてくると思うので、ブランド化には時間も要するが我々も

協力するので、是非頑張ってください。

⇒（山下 水産振興部長）

- ・物流の問題については改めて県内の状況も把握したうえで検討していきたい。
- ・ブランド化については水産物の販売価格を上げていくための非常に重要な取組であり、検討していきたいが、一方で特に漁船漁業の水産物は黒潮等の影響により漁獲量が変わってくる部分があり、難しいところ。
- ・実際に金目鯛などは漁獲量が減っているが、黒潮大蛇行がおさまったことにより今後増える可能性もあるため、環境の変化によって獲れる魚をどのようにブランド化できるのか考えていきたい。

＜一般社団法人関西日印協会 西田アドバイザー＞

- ・今しがた橋爪アドバイザーからも為替変動による価格の上昇について話があったが、為替リスクについて行政職員もしっかりと認識しておく必要があると思う。
- ・今後マレーシアやインドを攻めていこうとする際に、高知の企業が貿易を盛んに行うようになった場合、為替の少しのリスクで利益が吹き飛んでしまうこともある。
- ・特に中小企業の場合、為替をマネジメントするノウハウを十分に有していないケースもあるため、貿易を推進する際には、行政も多少為替の知識を持ちながらサポートすることが必要である。

＜近鉄グループホールディングス株式会社 小林アドバイザー＞

- ・私は以前常務を務めていた頃に、四国 88 ヶ所プラス 20 ヶ所（四国別格二十霊場）を 1 年かけて回ったが、やはりお遍路は四国の文化だと感じた。
- ・実際に回っていると、各地でお接待を受け、無料で様々なサービスを受けた。こんなにしてもらって良いのかと恐縮したが、このようなお接待の文化が高知には残っている。
- ・“儲ける”という感性は大事だが、その気持ちを自分で抑えることが非常に重要である。
- ・私は近鉄百貨店のスタッフには「君たちは売ろうとしてはいけない。売ろうとすると売れなくなる」といつも言っている。
- ・売りたいという気持ちが表情に出せば品性を失ってしまうので、お客様が買いたいと思うような商品を仕入れ、余裕を持って接客することが大事。
- ・最近の日本は全てをお金の価値で考えようとするおかしな方向に向かっているという、個人的な感想を持っている。
- ・売りたいのであれば「買いたい」と思ってもらえるものを準備して棚に並べる、「行きたい」と思ってもらえる環境を用意して来ていただくようなことが、根本のビジネスの感性であると思う。
- ・日本人は“個”の価値観に移ってきている、反して“家族”、“団体”、“国”といった価値観が薄れてきているが、本来は“ふるさと”をどのように考えるかということが基本ではないか。
- ・“ふるさと”の概念なしに、飾り立てて良く見せて売ろうとするのが最近のビジネスの流れであるが、これが行き過ぎるとおかしな方向へ向かってしまう。

- ・そうした中で、今何が求められているかというところと少子高齢化対策だと思ふ。
- ・少子高齢化を何とかクリアするには、もう1度大家族制に戻し、共助のまちづくりを進めることが重要ではないか。
- ・大阪や東京のような大都市では難しいかもしれないが、もう少し余裕のある地方であれば、大家族制を進めていくことができないかと思案している。
- ・これを進めるためには、地方にある大学、高知であれば高知大学を中心に、少子高齢化の問題について真剣に議論することが必要。
- ・近鉄は70～75%が閑散線区を走っている。閑散線区が今後さらに広がっていくことが予想される状況においては、共助の環境を用意して、皆で持ち堪えることが重要。
- ・そのうえで現在検討しているのがスマートシティである。便利ではないがそれほど不便でもないという土地に適正地を探し出して、地方行政と我々が協力してスマートシティづくりを実験的に行うべきだと思ふ。
- ・また、電力会社では例えば台風の影響で電気回線に不具合が生じると電気が行き渡らなくなるため、全力をあげて回線を維持する努力をしているが、実際にはその回線の先にどれだけの人が電気を使っているのか見てみると、それほど多くない場合もある。
- ・そのようなケースでは社会資本の効率性から考えて問題があると思ふので、より手前にスマートシティをつくり、そこまでしっかりと社会資本が行き届いているようなまちづくりを行うことが必要。
- ・実際に行うのは難しいとは思ふが、日本の方向性を決めることになるのではないか。
- ・今後さらに深刻化する老老介護問題の対策にもなると思ふし、例えば親1人で子を育てているような母子家庭世帯等も巻き込んで、社会でしっかりと守っていく仕組みが必要ではないかと思ふ。
- ・もう1つ別の論点で、高知県への移住促進の面を考えた時に、移住を決断するには、その地において安全で文化的な生活を送ることができなければ難しいと思ふ。
- ・安全面に関しては地震対策も重要で、特に東南海地震のリスクが大きいと想定される太平洋側のエリアにおいて、いかに対策を講じて、住民の安全を守っていくかということが求められる。
- ・高知県においては南海地震について対策を講じ、住民を守りますという前提で移住を勧めていただきたい。
- ・また、地元大学は「地域に存在する」新たな学問を議論して、外から入ってきた方々にも教育していただきたいし、外から入ってこられた方には、そこで学んだことを高知で実験して活かしてほしい。そしてそのような方々が高知で家庭を持つような流れができれば良いと思ふ。
- ・是非「高知を育てる」、「地域を育てる」学問が優先となるような教育が、地元大学を中心に進めていかれると良い。

⇒ (濱田 産業振興推進部長)

- ・大学についてご意見いただいたが、先月、県内の国立、公立、私立大学に加え、経済団体との議論の場を設け、我々行政が施策を一方向的に伝えるのではなく、「若者が高知で活躍するには」という観点で双方向で意見交換する場を初めて設けた。

- ・我々も大学等と協力して、少子高齢化が進む高知において、若者に選んでいただける地域になるようしっかりと取り組んでまいりたい。

＜公益財団法人大阪観光局 溝畑アドバイザー＞

- ・シビックプライド（「都市に対する市民の誇り」）というものがあるが、この点において高知の人は非常に魅力的だと思う。
- ・私が高知を好きになったのは、高知の人は地域愛があるところ。
- ・他県では利害関係の強い他のエリアに目が向いていたり、儲けようという意識が高い印象を受けるところもあるが、対して高知の人は真っすぐだと感じる。
- ・小林アドバイザーのご意見にもあったように、大学などと連携して高知のシビックプライドを作り上げて、高知は日本の顔だというような気概で臨んでほしい。
- ・そうしたシビックプライドや、高知のアイデンティティなどを染み込ませたうえでプロモーションを行うことで、より高知の魅力が出せるかと思う。
- ・大阪・関西万博の次の万博は、サウジアラビアで開催される「リヤド万博」だが、是非高知の持つ魅力をリヤド万博に投入してほしい。大阪・関西万博のレガシーが強いのは高知であると、サウジアラビアに売り込んだら良いと思うし、我々も協力したい。

＜近鉄グループホールディングス株式会社 小林アドバイザー＞

- ・私は伊勢神宮の御遷宮委員を務めているが、伊勢に住む方々がなぜあれほど特別な雰囲気をもっているかという、彼らは自分たちが「神領民」であるという意識を持っているからであり、この「神領民」という言葉はわかりやすく、腑に落ちる。
 - ・同じように高知県民をどのような言葉で表せばいいかわからないが、高知県民は海の狩猟民族のイメージがあり、ある種猛々しい文化があるため、それを上手く表現できたら良い。
- ⇒（濱田 産業振興推進部長）
- ・小林アドバイザー、溝畑アドバイザーからご意見いただいた、高知県ならではのマインドを、バージョンアップする次期関西戦略に盛り込ませていただきたい。
 - ・本日アドバイザーの皆様からいただいた様々なご意見を踏まえ、さらに取組を進めてまいりたい。
- ⇒（濱田 高知県知事） ※閉会挨拶にて
- ・大阪・関西万博後において、インバウンド観光、富裕層をどのようにして取り組んでいくかという観点の中で、四国が一致して取り組んでいくことが大事ではないかというご意見をいただいた。
 - ・この点に関しては、四国4県の連携が深まってきており、一丸となってインバウンド観光にあたっていくという機運が高まっている。
 - ・また、国からもそうした県域を越えたスーパーリージョンを推進していこうという政策も出ているため、追い風にしてインバウンドを含めた観光推進に努めていきたい。
 - ・万博を通じて、輸出、大阪 IR、スタートアップといった新しいところに挑戦していく重要性についてもご意見を頂戴したが、これらについてもアドバイザーの皆様にご示唆をいただきながら鋭意取り組んでまいりたい。

- ・今回の万博では、森林県としての本県の存在感を、大屋根リングへの木材供給を通じて示せたと感じているが、特に一次産業分野においては担い手が不足している中で、いかに生産力を高めていくか、そして6次産業化を含めて高付加価値の商品をどのようにして作っていくかがポイントではないかと、本日皆様のご意見をお伺いして改めて感じたところであり、そのような観点での一次産業の取組も進めてまいりたい。
- ・そして最後に、高知県のあり方論に関連して、「SUPER LOCAL」な高知の魅力について、また少子高齢化、人口減少が進む中で、特に若い方々に移住、定住いただくためにはどうしたら良いかという点について、私自身も日々県庁の中で議論し、頭を悩ませているところであるが、その点についても大きなご示唆をいただいた。
- ・私自身は最近特に広がっている「都会型」、「消耗型」、そして「儲けてやろう」というような路線ではなく、豊かな自然の中でゆとりを持って子育てもできるような、高付加価値、価値創造型の高知、都会では得られない魅力を精一杯PRし、若い方々に高知に着目してもらい、定着してもらおうような方向性が、人口減少の克服という点においても極めて大事だという思いに駆られている。
- ・そのような観点でも、本日小林アドバイザー、溝畑アドバイザー、宮部アドバイザーから頂戴したご意見に大いに共感するところであり、地震対策を含め、そうした方向性の中で県づくりにしっかりと取り組んでまいりたい。